

金山町小中学校校務 DX 計画

文部科学省により、令和 5 年 3 月に「GIGA スクール構想の下での校務の情報化に関する専門家会議」の提言を取りまとめ、次世代の校務 DX の方向性が示された。また、令和 5 年 9 月に「GIGA スクール構想の下での校務 DX 化チェックリスト」に基づく自己点検の実施を各教育委員会及び学校に依頼し、その結果を「GIGA スクール構想の下での校務 DX 化チェックリスト」に基づく自己点検結果の報告について（通知）」として同年 12 月に公表したところである。

このチェックリストに基づき、校務の DX に向けた取り組みを行う。

1 1 人 1 台端末の積極的な活用

教職員と児童生徒 1 人 1 台の端末と、デジタルノートアプリの活用、クラウド上で学校と児童生徒及び保護者間で双方向でのやり取りや成績管理、出席管理なども行えることから、活用の範囲を広げていく。

また、アンケート及び学校・保護者の意見集約などをオンラインフォーム作成ツールを活用して効率化を図ることや、クラウドストレージを活用して教育委員会及び学校と一部データを共有することも検討している。

他にも保護者との連絡・応対といった時間の削減、業務時間外の問い合わせや連絡についても効率的に対応できることから、拡充を図っていききたい。

なお、教職員により ICT 活用能力に差があるため、教育委員会より委託している ICT 支援員により、ツールを使いこなせるよう勉強会や研修を実施し、教職員のスキルアップを引き続き図っていく。

2 学校の事務手続きの簡素化とペーパーレス化

メールでのやりとりが一般的となっているため、今後は前述の各種ツール及びクラウドストレージの活用により、資料の共有を図り、これらによる事務手続きの簡素化や会議のペーパーレス化を引き続き推進していく。

3 次世代校務支援システムについて

情報の一元管理等により、更なる業務効率化の推進に繋がると思われることから、教育委員会と小中学校で情報共有を図り、新たなシステムの情報収集と導入の検討をしていく。